

## 令和4年度 生命融合科学教育部シンポジウム 実施報告

令和5年2月10日（金）13時より、五福キャンパス総合教育研究棟（工学系）多目的ホールにて、令和4年度生命融合科学教育部シンポジウム「産学連携のススメ～大学と社会の共創を目指して～」を開催した。今回は研究推進機構学術研究・産学連携本部との共催で、産学連携をテーマに特許、起業、共同研究などを中心に議論した。



大学における基礎研究の重要性は言うまでもないが、その研究が実用化や社会実装に向かう際には、産学連携による研究の推進がより効率的となる場合も多い。しかしながら、大学の研究者の多くは産業界との接点を持たないために、産学連携がうまく進まないケースもある。

また、状況によっては産学連携を探るより、研究者自らがビジネスを興し、自身の研究テーマを社会に導出する道も拓かれている。

このように、研究の展開には様々な可能性があることを学内外の研究者にアピールしたいと考え、本シンポジウムを企画した。

講師の先生方には素晴らしいご講演を賜り、感謝申し上げます。また、当日は学内外の研究者や多くの学生のみなさまのほか投資家の方にも参加いただいた。参加者のみなさまに厚くお礼を申し上げます。事務職員のみなさまならびに当日手伝いを担当していただいた学生諸君にも心より感謝いたします。

なお、当日の参加者数は80名であった。

シンポジウムコーディネーター 阿部 仁

### （1）開会のあいさつ

生命融合科学教育部長 井川善也

本シンポジウム開催の経緯と趣旨について説明があり、講師への謝辞が述べられた。

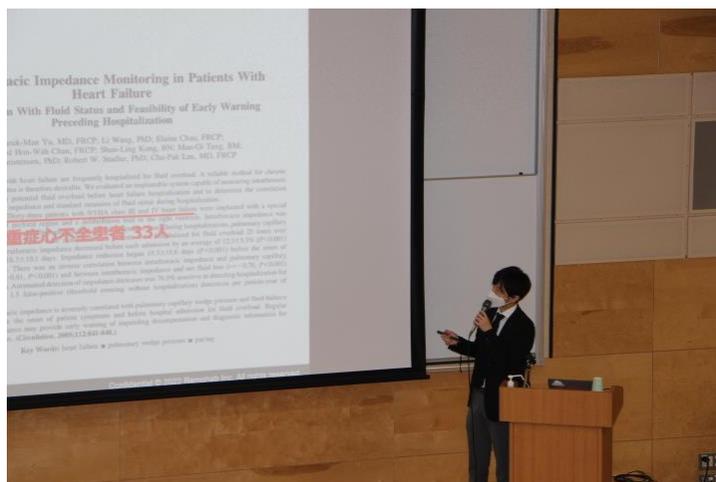


## (2) 特別講演

講師：株式会社リモハブ 代表取締役 谷口達典

演題：医師起業家による医療機器開発～シリコンバレー一流人材育成プログラムを経て～

講演概要：自身が医師として勤務しながら起業を目指すに至った経緯と、現在の取り組みを分かりやすく話していただいた。起業の際の資金調達やスタートアップ企業としての経営のコンセプトについての話は、大学の研究者が普段聞くことのできない示唆に富む内容であり、印象深い講演であった。



## (3) セミナー(1)

講師：学術研究・産学連携本部 コーディネーター 田島繁

演題：特許出願するためには

講演概要：大学の知財担当コーディネーターの立場で、特許の基礎から出願に至るまでの流れをわかりやすく解説いただいた。様々な事例を交えて、特許出願の際に気を付けるべき点など大学の研究者が知っておきたい事柄について聞くことができた。



## (4) セミナー(2)

講師：学術研究・産学連携本部 准教授 大西正史

演題：研究から起業へ 大学発ベンチャー・Startup への期待

講演概要：国内外の社会情勢から大学発ベンチャーへの期待が高まっていることを数々のデータを交えて解説された。そのうえで、大学の研究者や学生が起業する際のポイントとなる考え方が示された。また、本学が取り組んでいるスター



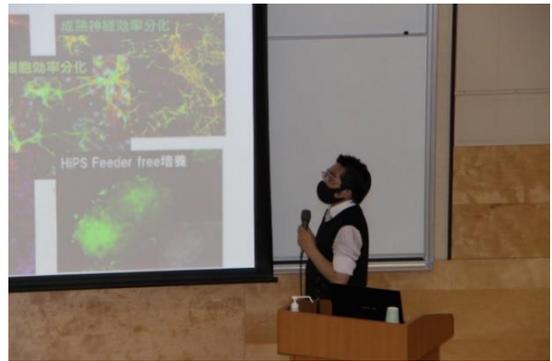
トアップ支援の概要について紹介があった。

#### (5) 依頼講演

講師：学術研究部 工学系 准教授 中路正

演題：共同研究企業との繋がり方事例と共同研究推進への取り組み

講演概要：自身の研究テーマがどのようにして共同研究に至ったのかを実例を示しながら解説された。産業界とのつながり方はさまざまであり、その中でチャンスをとらえて共同研究に結び付けるための考え方を聞くことができた。また、本学の産学連携本部との協力の重要性についても触れられた。講演を通して、基礎研究を実用化につなげるためのヒントが示されていたように思う。



#### (6) 閉会のあいさつ

生命融合科学教育部（学術研究・産学連携本部） 阿部仁

本シンポジウムの総括と学術研究・産学連携本部の紹介があった。

文責 阿部仁